水と土の芸術祭×大河津資料館　出前講座①

1. イベント概要

期　間：平成30年7月22日（日）13:00～17:00
会　場：砂丘館　（新潟市中央区）
内　容：約100年前の大河津分水の実物資料を公開・展示し、大河津分水ができるまでの軌跡を解説しました。
主催者：信濃川河川事務所　参加者数：およそ30名

和室3部屋を使用し、展示と解説を行いました。

2. イベント状況

昭和6年に建設された旧日本銀行新潟支店長宅は新潟市の芸術・文化施設「砂丘館」として公開されています。今回はこの砂丘館を会場に大河津分水の資料を特別に展示しました。1回30分の解説をランダムに行いながら、来訪された方々からの質問に直接お応えし、多くの方々から大河津分水に関心を持っていただきました。

約100年前の実物資料を目の前に、大河津分水完成までの道のりなど細かな部分まで解説しました。「大河津分水がなかったら新潟市はこんなに発展しなかったんだろうなあ」と感心される方もいらっしゃいました。

参加者の声

学校の総合学習で萬代橋について勉強した時に、大河津分水についても調べました。大河津分水ができたことで信濃川の川幅が狭くなって萬代橋の長さも短くなったことがすごいと思いました。そして、自在堰の動き方を教えてもらい、その仕組みに驚きました。今度は信濃川大河津資料館へ行ってもっと色々見てみたいです。

（新潟小学校6年生）

大河津分水ができるまでの歴史を中心にお話ししました。新潟市ゆかりの人物や、横田切れの被害の話題になると、皆さんからたくさんの質問が寄せられました。また、来訪された方々同士で意見交換される場面もありました。

※第2回目は8月26日（日）同時刻・同会場で予定されています。

“水と土の芸術祭”とは

水と土の芸術祭は、“私たちはどこから来て、どこへ行くのか ～新潟の水と土から、過去と現在（いま）を見つめ、未来を考える～”を基本理念とし、2009年から3年に1度、新潟市内で開催しています。新潟市の水と土によって形成された、独自の風土や文化に光をあてることで、人間と自然との関わりかたを見つめ直し、未来を展望していくヒントとなるものを探る芸術祭です。

（水と土の芸術祭2018HPより引用）